

要望書（回答）

1. 無料低額診療事業の普及とさらなる充実のお願い

今年度は無料低額診療対象者の薬代助成について、より多くの方に利用してもらうために、市職員のみなさんと当院の懇談をご提案頂くなど、苫小牧市としても誰もが医療を受けることができるように努めていただいたことに感謝を申し上げます。当院は社会福祉協議会や勤医協福祉会有償ボランティア、道央健康友の会と懇談や連携を深めることで、生活困窮者が増えている実態を改めて認識し、無料低額診療の更なる周知の必要性を感じています。

一方で、生活保護基準を満たしていない患者さんにとって、無料低額診療制度を継続して利用できることは重要なことがあると当院は考えています。大きな課題は、薬代助成が無料低額診療の新規患者に限り、最大1年間で終了してしまうということです。治療が継続できれば生活の質を維持できるものの、治療の中断が余儀なくされる事例をなくし、誰もが安心して薬物療法を受け続けられるように、最大1年間となっている薬代助成について、延長をご検討いただけますようお願いをいたします。

【回答】（福祉部総合福祉課 担当）

普及拡大につきましては、これまでも、民生委員児童委員広報誌の活用、相談窓口を訪れた方への周知のほか、広報とまこまいでも事業を紹介するなど取組をしておりますが、今年度は新たに民生委員児童委員会長定例会での周知のほか、とまチョップを活用した周知活動につなげております。

今後につきましても、近年の利用実態などを踏まえ、貴院と積極的に連携しながら引き続き周知に努めてまいりたいと考えておりますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

次に、助成期間の延長につきましては、平成30年度に助成期間を当初の半年から最長1年間に延長しております。

本事業は生活の困窮状態が改善されるまでの一時的な措置であると認識しており、薬物療法が長期間にわたる場合には、生活環境全体の改善を図ることが特に重要と考えていることから、現段階で助成期間の延長は考えておりません。

これまで本市ではハローワーク等と共に生活困窮者の就労促進を図る取組みを行っており、今後については、貴院とも連携しながら助成対象者の自立に向けた取組みを推進してまいりたいと考えておりますので、ご協力いただきますようお願いいたします。

2. 子ども医療費助成拡充のお礼と継続したご検討のお願い

2024年8月より子ども医療費助成の対象を18歳まで拡充される方針をお持ちいただきありがとうございます。苫小牧市規模の自治体が高校生までの通院助成を実施することは、市長の大きなご決断があった事と思います。当院にも無料低額診療の対象となる就学援助世帯の方が受診するケースもありましたが、小児科の標榜がないため、子どもたちへの医療の安全性を懸念していたところです。また、この制度拡充により眼科や耳鼻科など、小児に多く見られる疾患の治療にも誰もが安心してかかることができるようになることを期待していますし、地域における子育てにおおきな力になることは間違いないと考えています。

一方で、一般的には少額と言えるかもしれませんが、非課税世帯には一部負担金が発生します。道内各自治体の子ども医療費助成をみると芦別市、歌志内市、北斗市、赤平市は初診時一部負担金の徴収をしておりません。将来的には非課税世帯の一部負担金の徴収をしないことも、継続してご検討をいただきたいと要望いたします。

【回答】（健康こども部こども支援課 担当）

本制度につきましては、市民や市民団体からも要望が多く、本市としても検討を続けておりました。昨年6月に閣議決定された「こども未来戦略方針」において、こどもの医療に係る負担割合については記載されておらず、当面の間、制度変更される可能性が無いと判断し、「子育て世代に手厚いまち」の実現に向けて、本市が独自で行う方向性を示したものであり、議会の議決を待って実施されるものであります。

また、自治体によって、完全無償化や所得制限撤廃といった助成の考え方がありますが、一部負担は残すものの所得制限を撤廃し全世帯型の助成とする手法の方が、本市の基本的な考え方に合っていると判断したものでございます。

今回の拡大案は小学校・中学校・高等学校の12学年分を一気に拡充するものであり、受診者の増加が見込まれることから、医療機関でも混雑が予想され、一定の負担を残すことで混雑を緩和し、体調の悪い人をあまりお待たせしないことと医療機関側の混雑回避を考慮したこと、併せて、財政負担増のシミュレーションと実際の財政負担規模がどのようになるかを見定める必要があることをご理解願います。

3. 介護タクシー事業者を増やす政策のお願い

苫小牧市における介護タクシー事業者は 2023 年 9 月にほくしょう運輸が介護タクシー事業から撤退したため、現在 2 社（グリフィン介護タクシー・福祉介護タクシーサツエイ）のみとなっています。17 万人都市の苫小牧市で介護タクシーが 2 台しかない現状は地域住民に「定期受診がますます困難になった」「介護タクシーの都合により転院・退院の日程が左右される」など影響が出ており、不安を与えています。また、医療機関や介護・福祉施設にも転院搬送を各病院が独自の努力で担う事も求められており、コロナ禍による業務負担増、コスト増に追い打ちをかけるものとなっています。

市としても状況を把握された上で、早期にご対応いただきたいと要望します。同時に介護タクシー事業が存続できるような、対象事業者への補助等のご検討もあわせてお願いいたします。

【回答】（福祉部介護福祉課、福祉部障がい福祉課 担当）

本市では、介護タクシー（福祉輸送限定事業者）を利用する障害者等に対し、福祉ハイヤー助成制度を行っておりますが、9 月より運賃以外に介助料等の料金にも助成範囲を拡大し、利便性向上及び

利用促進を図ってまいりました。

また、12 月より開始した高齢者施設等物価高騰対策支援金事業の実施にあたっては、福祉サービス事業者以外に福祉輸送限定事業者も新たに対象とするなど、事業者支援に取り組んでいるところです。

引き続き、事業者ともヒアリングを行いながら、事業者支援に取り組んでまいりたいと考えています。